

取組概要

直川中学校では、年度末の客観的データを基にした検証・改善により、「基礎学力と表現力を身につけた生徒の育成」を目指すこととし、生徒の実態を踏まえて「授業の振り返りの視点」を焦点化して教職員・生徒間で共有するとともに、表現力の育成に向けた取組を組織的に進めている。

工夫・ポイント

【学校マネジメントの工夫】

- ◆年度末の検証・改善の際には、客観的なデータをもとに取組状況・達成状況を確認し、新年度の重点目標及達成指標等を定め、短期の検証・改善が可能な重点的取組・取組指標を定めている。
- ◆教務主任・研究主任を中心に、会議・研修等について先を見通したスケジュールを立て、月1回のFWT（フリーワークタイム）を生み出すとともに、各月における職員ごとの時間外勤務の状況を可視化して示し、働き方への意識付けを図っている。

特徴的な活動

- ◆表現力の育成に向け、各学年において「目指す表現力」の具体的な姿を生徒とともに共有し、多様な表現の場を設定している。
- ◆生徒の個人カルテを作成し、学力面・生活面等の多面的な視点から具体的な支援を行うとともに、取組状況を定期的に確認している。

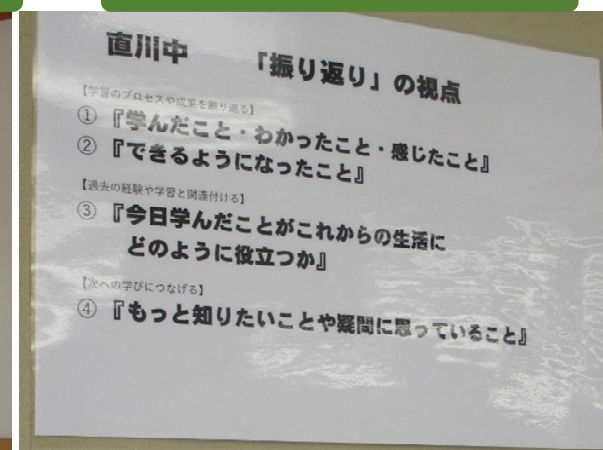
関係者の声

- ◆直川中学校が目指す自立した学習者の姿を具体化し、学習目標・生活目標等の振り返りや目標の更新などを視点に、「学びに向かう力、人間性等」としての達成指標を定めることも考えられる。
- ◆地域・学校のwin-winの関係をつくるよう、生徒を積極的に地域と関わるようにしながら、持続可能な直川のため学校としてできることを進めたい。

どの教室にも授業・生活のNAOSTYLE



焦点化した「振り返りの視点」



学習目標等を短期で振り返り、目標の更新につなげる取組

